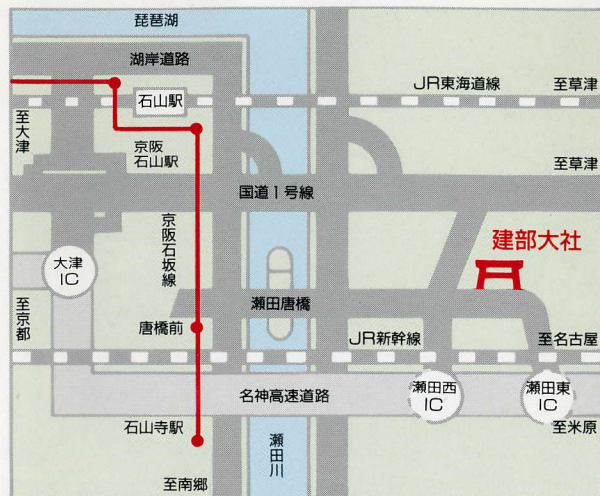




近江国一之宮
建部大社



交通の便

■JR石山駅より

近江バス——「神領団地」または「草津方面行」
神領建部大社前下車徒歩1分。

帝産バス——「信楽行」にて建部大社前下車徒歩1分。

■京阪電車石坂線

「唐橋前」下車徒歩15分。

■名神高速道路利用の場合

瀬田東ICより5分（名古屋方面より）

瀬田西ICより5分（大阪方面より）

近江国一之宮
たけ べ たい しゃ
建部大社

〒520-2132 滋賀県大津市神領1丁目16-1
電話 大津 (077) 545-0038

御祭儀

1月1日	歳旦祭
3日	元始祭
9日	山神祭（末社 桧山神社祭）
15日	成人祭
2月不定	節分祭
4日	護国祭（弓の神事）
11日	紀元祭
17日	祈年祭（春の大祭）
3月不定	勧学祭
31日	榊立祭
4月1日	境内社 大野神社祭
14日	宵宮祭
15日	例大祭
6月15日	挿秧祭（田植の神事）
30日	大祓式
8月1日	納涼榊立祭
7日	納涼祭
16日	宵宮祭
17日	納涼船幸祭（大津三大祭の一つ）
10月12日	早穀祭（抜穂の神事）
11月23日	新嘗祭（秋の大祭）
26日	鎮火祭
12月23日	天長祭
31日	大祓式
〃	除夜祭
毎月1日	月次祭
15日	〃

御由緒

当社は古来建部大社、建部大明神などと呼ばれ、延喜式内名神大社に列し、又近江国の一之宮として朝野の崇敬篤く、長い歴史と由緒を持つ全国屈指の古社である。御祭神日本武尊は御年僅に十六才にて熊襲を誅し、更に東夷を平定され、遂に三十二才にして伊勢の能褒野に於て崩御されましたが、父君景行天皇は尊の死をいたく歎かれ御名代として建部を定め其の功名を伝えられたことが日本書記に記されているのであるが、これが即ち建部の起源である。

景行天皇の四十六年神勅により御妃布多遲比売命（父は近江安国造）が、御子稻依別王と共に住われた神崎郡建部の郷（御名代の地）に尊の神霊を奉斎されたのが当社の草創であつて、その後天武天皇白鳳四年当時近江国府の所在地であつた当瀬田の地に遷祀し、近江一之宮（其の国を代表する第一位の神社）として崇め奉つたのが現在の当大社である。



▲建部大社本殿

御祭神

歴朝の御尊信篤く、武門武將の崇敬枚挙に遑なく、就中源頼朝は、平家に捕われ、十四才にして伊豆に流されるため、京都から関東に下向の折、永暦元年（一一六〇）三月二十日当社に参籠して前途を祈願した事が平治物語に記されている。頼朝は遂に源氏再興の宿願成つて、建久元年（一一九〇）十一月右大将として上洛の際再び社前に額き龔年蒙つた深い神助に對し、幾多の神宝と神領を寄進して奉賽の誠を尽されたのである。爾来当大社が出世開運、除災厄除、商売繁昌縁結び、医薬醸造の神として広く崇敬される所以であり、明治十八年四月官幣中社に、同三十二年七月官幣大社に列し、国家最高の社格を与えられた。昭和五十年四月十五日御鎮座壹千参百年式年大祭を斎行し、これに伴う記念諸事業の完遂。そして平成二年三月十七日には本殿遷座祭を斎行し御社頭は面目をあらたに、御神威の程畏き極みである。

本殿 日本武尊

（相殿） 天照皇大神
権殿 大己貴命（大国主神）

■摂社（四社）

聖宮神社 日本武尊の御父
大政所神社 景行天皇の皇后
藤宮神社 日本武尊の御妃
若宮神社 日本武尊の御子
建部稻依別命

■末社（八社）

行事神社 吉備臣武彦
大伴連武日
弓取神社 弟彦公
箭取神社 石古横立
尾張田子之稻置
乳近之稻置
蔵人頭神社 七掬脛命
（膳夫神社） 料理の神
大野神社 草野姫命（地主神）
稲荷神社 稲倉魂命
八柱神社 素盞之男命他七柱命
松山神社 大山祇命他四柱命

御神徳

日本武尊

第十二代景行天皇の第二皇子で、母は皇后播磨稻日太郎媛である。幼名を小碓（日本童男）と申し文武、智勇にすぐれ熊襲征伐後日本武尊と称えられ、崩御後神霊を本殿にお祀し、厄除開運、授福出世、火難除神として崇敬が篤い。

大己貴命

大和一之宮大神神社より当社権殿に勧請し爾来、商売繁昌、縁むすび、病氣平癒、醸造の神として崇められている。

宝物

女神像三軀と、文永七年（一二七〇）在銘の石灯籠一基は、共に国指定の重要文化財である。

境内地

約三万平方メートル、社有地九万平方メートルに及ぶ。



◀女神像(重文)
平安時代